

愛知・印場城跡

1 所在地 愛知県尾張旭市庄中町渋川

2 調査期間 第二次調査 一九九五年(平7) 五月～十一月

3 発掘機関 尾張旭市教育委員会

4 調査担当者 七原恵史

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 室町時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(瀬戸)

印場城は、矢田川によって形成された沖積平野に築造された東西、南北ともに六〇m、土塁と堀をめぐらせた単郭の平城である。内郭の施設として、柵列と内郭中央から北東部にかかる溝は確認できたが、その他の遺構は明確にできなかった。土塁は幅五m、高さ二m、北堀は毛拔堀、他は箱堀である。南堀は幅八mに及ぶ。堀の水は南から取水溝を通じて得ていたが、農業用水

の一部が堀に流用されたものと推測される。

木簡は、東堀から南堀にかかる屈曲部の底に堆積したヘドロの中から漆器椀、箸、蒸籠、めんば、羽子板、子供用下駄、施釉陶器などとともに二点出土した。遺物は生活に密着したもので、印場城の時代に属するものである。

城の年代に関する記録は、水野又太郎良春がこの地域に入植し、良春の孫雅楽頭宗国が新居城を築いたが、その年次は寛正元年(一四六〇)とされており、その後西隣の尾関氏と争って勝利し、この地域を支配したとある。出土遺物もこの年代と一致し、一五世紀後半と推定できる。

墨書土器は、平安時代に属する瓷器の椀に「小林」「福林」「吉(あるいは「去」)、美濃系山茶椀の底に「一」が書かれたもの、行基焼椀に木偏とみられる文字が書かれているもの、天目茶椀の底に「霊」が書かれたものが出土している。また、羽子板には左向きに童子が描かれていた。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「自今良」

141×23×4 051

城の裏鬼門にあたる土塁の基盤からは八〇枚を超える土師質皿が出土し、内郭の溝からは人形も出土している。木簡も呪術的な意味をもち、「今よりも良い状態を」という願いがこめられているとも



解釈できる。ただし、墨書を仮名と解して「うかく□た□」と釈読することも可能である。

もう一点は曲物の一部と考えられる薄板の端に墨書されたものだが、保存処理中で釈読に至っていない。

本簡の釈読にあたり、中日展審査員の後藤幽泉氏のご教示を得た。

9 関係文献

尾張旭市教育委員会『尾張旭市印場城跡』（一九九七年）

（七原恵史）

木簡研究 第一七号

巻頭言

佐藤宗諱

一九九四年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十二坪 平城京跡 平城京跡左京七条一坊十六坪 東大寺 奈良女子大学構内遺跡 高安城関連遺跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊東南坪 藤原京跡左京十一一条三坊 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京跡左京四一条一坊一町 平安京跡左京八条三坊十四町 平安京跡右京八条二坊二町 慈照寺境内 客坊山遺跡群 大坂城跡 袴狭遺跡 見蔵岡遺跡 有年原・田中遺跡 梶子北遺跡 曲金北遺跡 伊興遺跡 錦糸町駅北口遺跡 宮町遺跡 前橋城遺跡 荒田目条里遺跡 矢玉遺跡 山王遺跡 大坪遺跡 中尊寺境内金剛院 花立Ⅱ遺跡 志羅山遺跡 福井城跡 大友西遺跡 石名田木舟遺跡(1) 石名田木舟遺跡(2) 北高木遺跡 水橋荒町遺跡 山木戸遺跡 上郷遺跡 陰田小夫田遺跡 米子城跡七遺跡 三田谷Ⅰ遺跡 吉川元春館跡 田村遺跡群 姉川城跡 中園遺跡Ⅲ区

一九七七年以前出土の木簡（二七）

平城京跡左京二条二坊六坪

刻菌簡牘初探—漢簡形態論のために—

榎山 明

新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申になった八幡林官衙遺跡…小林昌一、八幡林遺跡の時代的変遷…田中 靖、古代越後平野の環境・交通・官衙…坂井秀弥、封緘木簡考…佐藤 信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論…平川 南、討論のまとめ
書評 鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』 今津勝紀
彙報 頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円